

これからの県立高校のあり方について

現行の「県立高校活性化計画」の計画期間が令和3年度で終了することから、令和3年度においては、教育を取り巻く社会情勢の変化等をふまえ、これからの時代を生きていくために必要となる力を育てていくことのできる県立高等学校のあり方等について「三重県教育改革推進会議」でご審議いただき、次期「県立高等学校活性化計画」を策定していきたいと考えています。

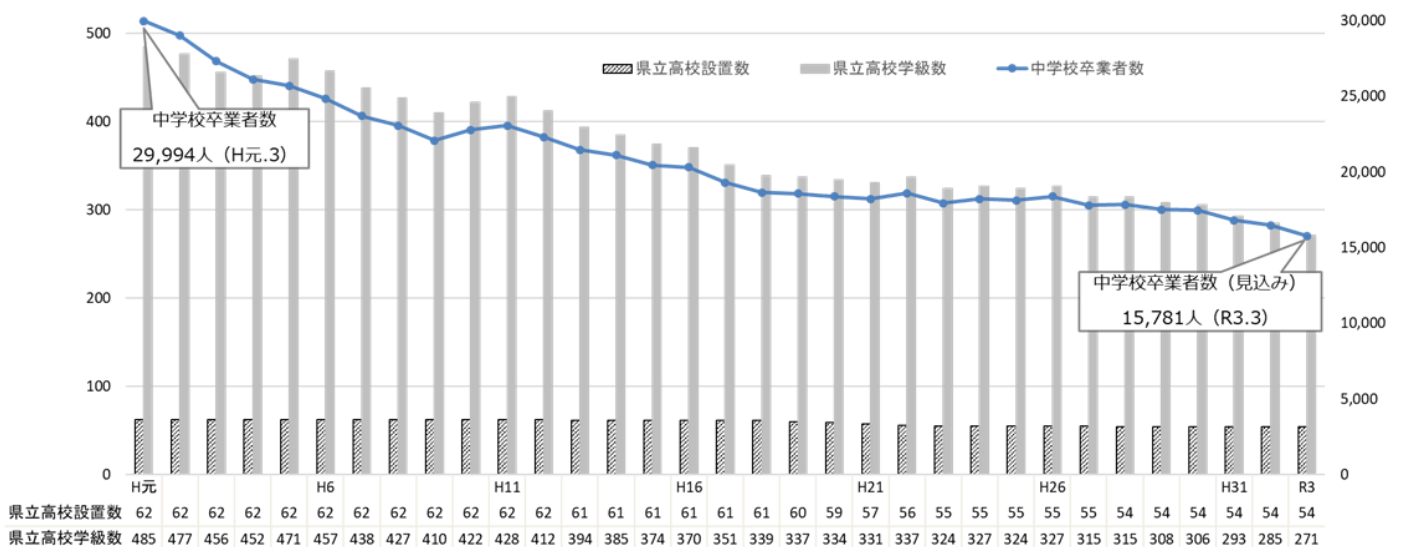
1 教育を取り巻く社会情勢の変化

別紙参照：「新しい時代の高等学校教育のあり方ワーキンググループ（審議まとめ）」(中央教育審議会初等中等教育分科会 令和2年11月13日)から抜粋

【参考】本県における少子化の状況

- 本県の人口は平成19年をピークに減少局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和7年には171万人に、令和27年には143万人にまで減少することが見込まれています。
- 県内の中学校卒業生数も年々減少を続けており、平成元年から令和3年を見ると、29,994人から15,781人（見込み）と約47.4%の減となっています。
- 全日制課程を置く県立高校の設置数については62校から54校へ8校の減少となる一方で、全日制課程を置く県立高校の学級数は485学級から271学級と約44.1%の減、1校あたりの平均学級数は7.82学級から5.02学級に減少しています。

【H1～R3 中学校卒業生数/全日制県立高等学校(含校舎)設置数/全日制県立高等学校(含校舎)学級数】



【中学校卒業生数の推移・将来推計】

中学校卒業生数は、令和4年3月に前年度を上回るものの、令和5年3月以降の5年間で1,000人程度減少することが見込まれています。



2 これからの時代に必要とされる力について

(1) 豊かな未来を創っていく力の育成

「三重県教育ビジョン」においては、これからの時代に必要となる力を「豊かな未来を創っていく力」とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を身に付けることで、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者に対する理解や思いやり・優しさを育み、それらを基礎として、失敗を恐れずさまざまなことに積極的に挑戦し、他者とつながり、協働しながら困難な課題を乗り越えていく力を育てていく、としています。

【参考】教育ビジョンに込める想い（「三重県教育ビジョン」11～12ページ）

- 1 誰一人取り残さない教育の推進
- 2 子どもたちの豊かな未来を創っていく力の育成
- 3 「オール三重」による教育の推進

(2) 主体的・対話的で深い学びと個別最適な学び

令和4年度から年次進行で実施されることとなっている高等学校学習指導要領においては、育成をめざす資質・能力について、

- ・「生きて働く『知識・技能』の習得」
- ・「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」
- ・「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」

の三つの柱で整理するとともに、生徒一人ひとりに社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手を送り出していくことが重要であるとして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことを示しています。

一人ひとりの子どもの能力を最大限に引き出すための ICT 等の活用も含めた多様な学びの提供、地域課題の解決に実践的に取り組む学びなど実社会とつながった学びの推進、生徒一人ひとりの状況に応じた指導と個々の生徒に応じた学習活動の提供などの個別最適な学びの推進などの実現が求められています。

3 「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」での議論の概要【資料6】

地域産業界や教育・文化等の分野、県立高等学校OBなどさまざまなバックボーンや経験を持つ方々から、これまでのご自身の経験をふまえ多様な観点・角度から議論することを目的に設置した「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」において、これからの時代を生きていく高校生にどのような学びが必要か、そのために高等学校はどのようにあるべきかなどについて、計7回にわたって議論を行いました。

【参考：協議テーマ】

開催日	テーマ
第1回(10月13日)	・新たな時代における本県の高等学校教育のあり方について
第2回(12月1日)	・県立高等学校の課題と協議テーマ ・新たな時代に対応した高等学校教育の推進①
第3回(1月5日)	・新たな時代に対応した高等学校教育の推進② ・全ての高校生を誰一人取り残さない教育環境づくり
第4回(2月4日)	・これからの学びに対応した学科・課程のあり方
第5回(3月15日)	・これからの社会の変化と県立高等学校の学びに対応した社会性・人間性の育成 ・県立高等学校の規模と配置①
第6回(3月26日)	・県立高等学校の規模と配置②
第7回(4月26日)	・協議のまとめ

4 県立高等学校生徒を対象としたアンケートの実施

「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」では、本県の高校生の現状を把握するため、令和2年度に県立高等学校に入学した生徒（アンケート時に高校1年生）を対象に、高校での学びに対する期待や興味・関心、これから受けたい授業等について、インターネットを活用したアンケートを実施しました。

【アンケートの実施概要】

- 調査期間 令和2年12月7日（月）～令和3年1月11日（日）
- 調査対象 学科（普通科、専門学科、総合学科）課程（全日制、定時制、通信制）別に抽出
- 回答者数 3,373名
 - （学科別内訳）普通科、普通科系専門学科 1,695名
 - 職業系専門学科 1,395名
 - 総合学科 283名
 - （課程別内訳）全日制 3,146名
 - 定時制・通信制 227名

【参考】アンケート項目

質問番号	項目	資料6 頁数
1	高校に入学する前、高校に対して期待していたことは何ですか。	30
2	現在通っている高校を選んだ理由は何ですか。	32
3	高校を選ぶとき、参考にしたことは何ですか。	34
4	どんなときに、現在通っている高校に入学出来てよかったと実感できますか。	36
5	現在通っている高校での生活について満足していますか。	38
6	質問5でそのように回答した理由は何ですか。	40
7	あなたは普段、授業の予習・復習や受験勉強、資格取得のための学習などを、授業以外(家や塾、放課後の学校等)でどれくらいしていますか。	44
8	あなたは普段、学校の授業時間以外に一日あたり平均でどれくらいの時間、読書をしますか。	50
9	あなたは普段、学校の図書館をどれくらい利用しますか。	53
10	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	56
11	これからの時代に向けて高校時代に身につけておくことが必要だと思うものはどれですか。	60
12	質問11で選んだ項目について、あなた自身は、それらを身につけることができていると思いますか。	62
13	学校だけではなく普段の生活も含めて、これから学びたいと思っていることや、興味・関心を持っていることについて一言で表現してください。	64
14	今後、どのような形の授業を受けたいですか。	66
15	現在通っている高校をよりよくするためには、どんなことをしたらよいと思いますか。	68
16	これからの社会には、どんな高校があつたらいいと思いますか。	70

5 地域活性化協議会での議論の概要【資料7】

中学校卒業者の大幅な減少が予想されている伊賀・伊勢志摩・紀南の各地域に設置した地域協議会において、地域の声を丁寧に聞き取るとともに、教育に関する国の動向やみらい委員会の協議内容を共有しながら、今後の地域の高等学校教育や県立高等学校のあり方等についての協議を継続しています。